

番号	8		平成28年度公共事業事後評価調書		担当課名[農地整備課]		
事業名	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）			事業主体	静岡県		
箇所名	うめじま 梅島			市町名	静岡市		
事業概要							
受益面積	58		採択年度	平成5年度	完了年度	当初 平成12年 実績 平成22年	
事業費	当初	3,150百万円（平成15年度計画変更）		実績	2,988百万円		
事業量	農道工 58ha（幹線農道L=1,161m, W=5.5m） 区画整理工58ha（調整池3か所含む）						
事業の目的・必要性							
<p>本地区は、静岡市清水区の市街地より北部に位置する中山間地の傾斜面を利用した茶やみかんの生産地であるが、傾斜面での非効率な栽培や悪い農道条件により労働生産性が低く、みかんや茶の価格低迷の影響による後継者離れが深刻となっていた。このため、区画整理による農地の平坦化及び農道整備による営農の省力化を図り、地区内の担い手農家の育成や農業経営の安定化を目的に事業を実施した。</p>							
事業の効果等							
費用対効果 分析結果	前回 計画 変更	B/C	総費用	31.68 億円	総便益	32.51 億円	基準年
		1.02	（事業費：31.68 億円） （再整備費等：- 億円） （関連事業費：- 億円）		（農業生産向上効果：6.20 億円） （農業経営向上効果：26.08 億円） （地域資源保全・向上効果：0.23 億円）		平成16年度
	事後	B/C	総費用	36.89 億円	総便益	49.56 億円	基準年
		1.34	（事業費：32.11 億円） （再整備費等：4.78 億円） （関連事業費：- 億円）		（食料安定供給確保効果：49.33 億円） （農業持続的発展効果：- 億円） （農村振興効果：0.23 億円） （多面的機能発揮効果：- 億円）		平成27年
<p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い総費用・総便益額が増加した。 また、主に生産されている茶やみかんの収量が事業完了後に上昇したため、作物生産効果が向上した。</p> <p>2) 事業効果の発現状況 <食料の安定供給の確保に関する効果> ・区画整理により作付作物が多様化し、作物単収が増加した。 作物生産効果：（単収）869kg/10a→1,224kg/10a…茶 2,166kg/10a →3,000kg/10a…みかん ・道路の路面状況が改善したことにより、作物の荷傷みが防止され品質が向上した。 品質向上効果：（単価）106千円/t→216千円/t ・区画整理により農地が平坦化し、農作業時間が短縮した。 営農経費節減効果：（労働時間）1,754時間/ha→1,235時間/ha（青島みかん） ・農道整備により道路状況の改善が図られ、輸送時間が短縮された。 営農に係る走行経費節減効果：（走行経費）111,040千円→80,307千円 <農村の振興に関する効果> ・換地により地籍が明確化し、個人の財産管理が適正化された。地籍確定効果16,375千円 <その他> ・新東名高速道路からの建設発生土約300万m³を地区内の基盤土として受入れ、本事業とNEXCO双方で約67億円のコスト縮減された。</p>							
事業により整備された施設の管理状況							
<p>・農道及び排水路は静岡市が適正に管理している。 ・区画整理された優良農地は、耕作者により適正に植栽・営農されている。 ※日常管理は「花の吉原緑の会」がふじのくに美農里プロジェクトに取り組み、地区内の農地、農道及び排水路などの草刈や施設の巡回点検（年5回）を地域で実施している。</p>							

事業実施による環境の変化

- ・農地条件の改善や農村環境の向上により、地区内の担い手農家の農地利用集積が拡大した。
事業前 1.85ha (3.1%) → 現況 16.65ha (28.7%) ※ () 内は農地面積に占めるシェア率
- ・農地が平坦化したことを契機に、自園の茶に自信を持ち以下のような農家が現れ、生産品のブランド化、高付加価値化に取り組んでいる。
 - ①茶の生産から製茶までの一貫作業を自身で行い販売する茶農家
 - ②BMW農法などの有機栽培(有機JAS)により食の安全性を確保し消費者のニーズに応え他地域の茶と差別化を図る農家 ※静岡県エコファーマー認定第1号を取得し精力的に生産
- ・生産者同士がお互いの農産物の栽培管理法等を意見交換するようになり、更なる品質向上を目指して生産意欲が向上した。
- ・地区内の広範囲を一望できる緑豊かな農村風景や雄大な富士山を臨めるようになったため、整備された農地を活用した観光農園など、都市住民との交流を希望する農家が増えた。
- ・ふじのくに美農里プロジェクトの活動により、農地や農道、排水路等の農業用施設の管理や除草、ゴミ拾い、景観形成のための植栽などが非農家も含めて地域ぐるみで行われるようになり、活動を通じたコミュニケーションが積極的に図られている。

社会経済情勢等の変化

- (1) 地域社会の動向
- ・昨年度より中部横断自動車道の建設発生土約75万m³を地区内の窪地農地へ搬入しており、中部横断自動車道の平成29年度供用開始と窪地農地の日照条件の改善を図っている。
 - ・新東名高速道路の開通や中部横断自動車道の整備と併せ、地区周辺の道路が整備されることにより、市街地へのアクセス、農業用資材の搬入・搬出、収穫物の出荷が容易となった。また、地区内で観光農園を希望する農家もあり“みかんオーナー制度”などの都市・農村交流活動の促進が期待される。
- (2) 地域経済の動向
- ・「JAしみず」では、事業によるみかん収量の増加に伴い、各地への供給量を増加させることで従来に比べ大規模な取引が可能になった。これにより「清水ミカン」の知名度を向上させ、需要に対応できる安定供給体制を確保している。
 - ・静岡市清水区庵原地域の土地改良区と自治会、県、市、JAが設立した「庵原オレンジフロンティア推進協議会」は、畑地帯総合整備事業や新東名高速道路の整備によって変貌した庵原地域の振興を図るため、地域の活性化に向けた整備構想の策定等に取り組んでいる。
 - ・平成26年4月に「静岡しみず産」の農芸品を販売する「アンテナショップきらり」がオープンし、静岡しみず産のブランド化を推進しており、生産者の営農意欲も高まっている。

対応方針(案)

(1) 評価結果

- 事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。
- ・区画整理、農道の整備により営農労力の軽減、生産量の増収、品質の向上が図られ、茶やみかんの生産地として強化された。

(2) 今後の課題等

- ・作付け作物の多様化や農産物の品質の更なる向上のため、防風ネットや畑地かんがい施設の整備、マルチドリップかんがいなどの高度な施設の充実を図る必要がある。
- ・新東名高速道路や開通を予定している中部横断自動車道により交流人口の増加が見込まれるため、農村環境の向上や交流促進のための地域イベントの開催について検討していく必要がある。

(3) 同種事業への反映等

- ・本事業により樹園地の平坦化が行われ、意欲ある担い手農家への農地集積が進んだことにより、地域の営農が継続され、耕作放棄地の発生が抑制されている。
- ・換地により公共事業等の用地を創設する事業手法は、農業振興と秩序ある土地利用の両方が可能となっており、地域の生活環境向上にもつながるため、今後、同種事業においても地域の状況を踏まえつつ実施していく。

畑地帯総合整備事業（担い手育成型） 梅島地区 位置図

県内位置図



縮尺 1/25,000

凡例	
受益地	赤色
新東名高速道路	紫色
中部横断自動車道	青紫色
主要地方道	ピンク色
市道	緑色

中部横断自動車道（建設中）

主要地方道
清水富士宮線

梅島地区

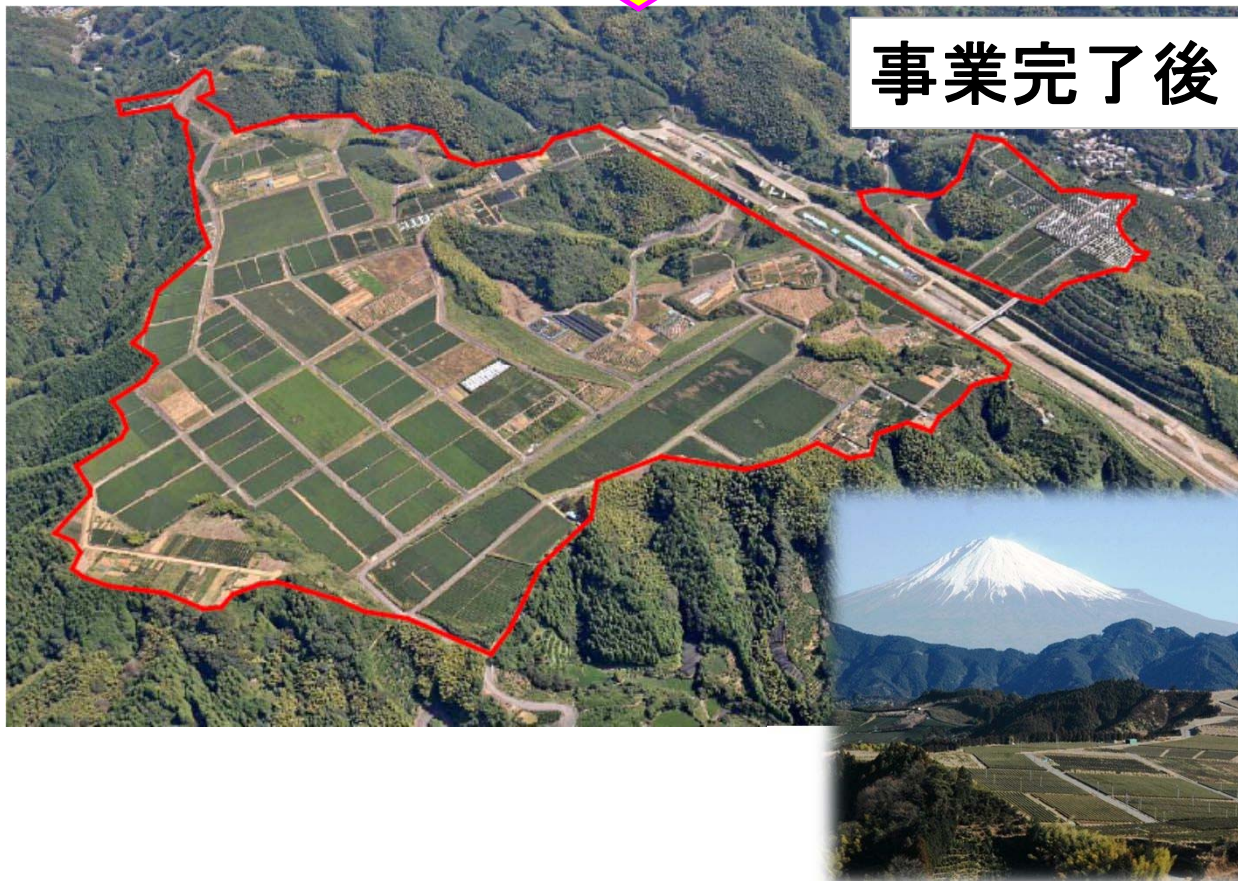
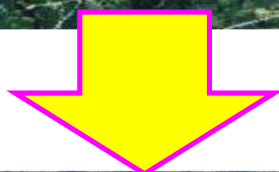
一般道
茂畑横砂線

新東名高速道路

新東名清水いはら IC

●事業効果の発現状況

＜地区の全景＞



平坦で大規模な農地に変貌し、緑豊かな畑地と雄大な富士山の風景が調和した自然豊かな地域に。

●事業実施による環境の変化

事業開始前



急傾斜な斜面に茶やみかんの畑



可搬型摘採機による茶摘

事業完了後



ほ場が見渡せるようになり、隣接農家とのコミュニケーションが生まれ、**農村環境が向上**。また、**有機JAS認証や、エコファーマー認定を取得**するなど、**意欲的な農業を展開**。

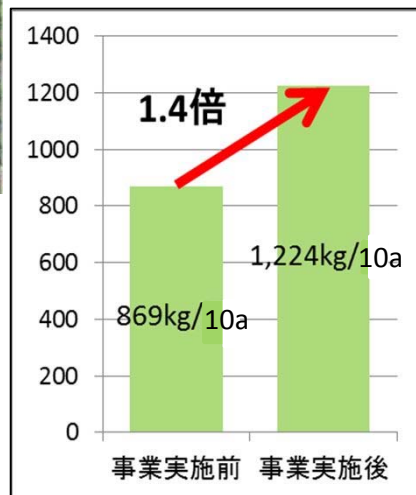
乗用型茶園管理機の導入や、**トラックによる農産物の輸送**が可能になり農作業効率が向上。



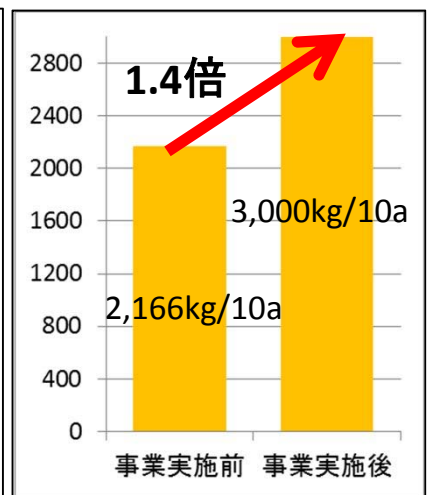
みかん畑にきめ細やかにかん水し、品質を向上させるため、**マルチシートを設置**するなど農家独自の生産工夫が顕著に。

作物生産の効果: 単収量 (kg/10a)

お茶

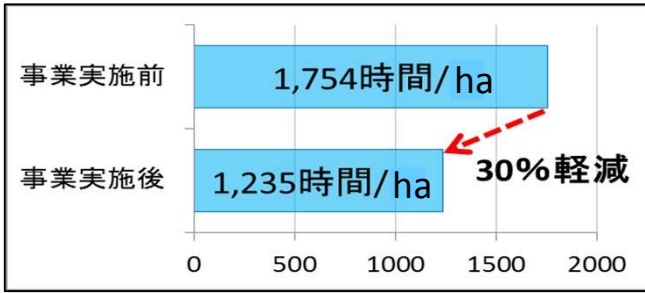


みかん



基盤整備により生産性の向上を図る機械化が進み、生産作物の高付加価値化に取り組む農家も増加。

営農経費節減の効果:労働時間(時間/ha)



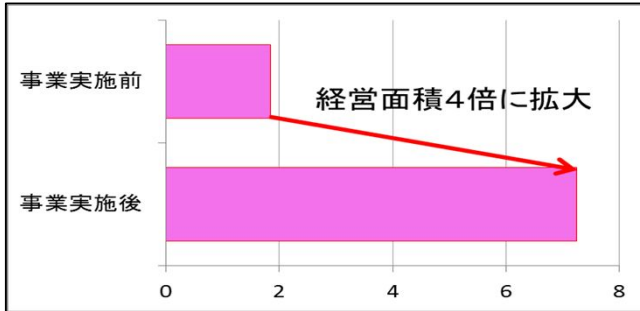
農村振興効果:地籍確定(千円)

換地成果によって、土地の境界や権利関係が明確になり、**災害時の早期復元が可能**となった。(効果額:23百万円)

地域コミュニティの形成・地域防災力の強化



担い手農家の面積経営面積(ha)

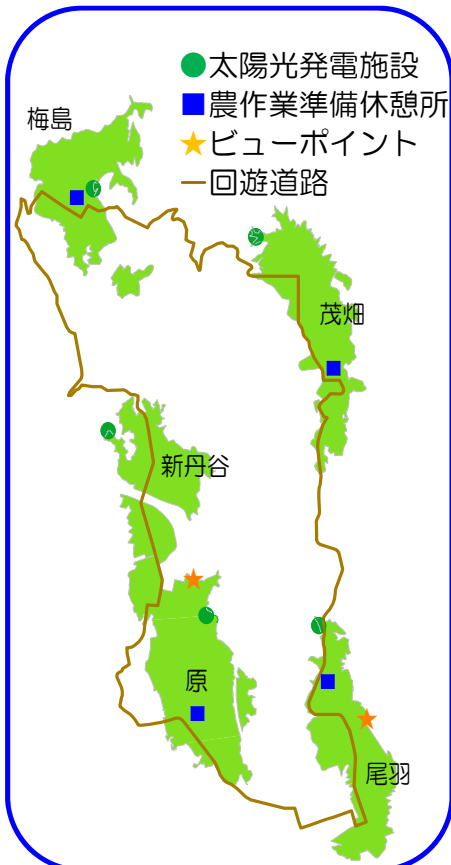


大型耕作機械の導入で、茶の摘採作業が軽減。さらに、**大区画な農地の集積が進み**、担い手の経営面積が大幅に拡大。

農家・非農家による農村風景の形成や、農地、農業用施設の巡視点検を実施し、**地域コミュニティや地域防災力が強化**。

事業の実施により、**地域コミュニティの構築や防災力の強化**など、波及的な効果が増大。

●社会経済情勢等の変化



庵原地域の他地区との連携、新東名高速道路や中部横断自動車道からの顧客へ「しみずブランド」をPR。